

感謝状

南西電設株式会社

代表取締役社長 親泊 政夫 殿

貴社は、この度の台風6号による沖縄病院の停電において、台風通過後の強風の中、優先的に当院に駆けつけていただき、深夜におよぶ復旧作業に尽力され、優れた技術と豊富な経験をもつて復電を完了されました。当院に入院している人工呼吸器等の電気を必要とする患者さまの生命を守るとともに、入院中の患者さまの療養環境改善のため、誠心誠意の復旧作業を行っていただいたこと、およびご尽力に対し深く感謝の意を表します。

令和五年八月二十八日

独立行政法人国立病院機構 沖縄病院

院長 大隅 勤子





大湾勤子院長（後列右から3人目）から感謝状を受け取った（前列右から）末吉寛志さん、謝花晃さん、東江清隆さん、大城和政さん、普天間直司さん＝8月25日、宜野湾市・沖縄病院（同病院提供）



大湾勤子院長（前列左端）から感謝状を受け取った親泊政夫さん（同左から2人目）と新垣淳さん（同3人目）＝8月28日、宜野湾市・沖縄病院

命の危険回避へ「必死」

台風6号襲来時

停電復旧 7人に感謝状

沖縄病院で1週間作業

【宜野湾】宜野湾市にある国立病院機構の沖縄病院は8月25、28の両日、台風6号による停電の復旧対応に当たった電気関連事業者ら7人に感謝状を贈った。大湾勤子院長は「人工呼吸器を使っている患者も多く、停電は命の危険につながる。遅い時間から緊急で駆け付けて対応してもらい、心から感謝申し上げる」とお礼を述べた。（中部報道部・伊集竜太郎）

病院などによると、台風の影響で8月1日夜に全3棟で最初の停電が発生。復旧したが、翌朝も停電したため、病院の電気設備の修理などを行っている沖縄電気環境の末吉寛志代表に連絡した。その後も断続的に停電が発生し、末吉さんはそのたびに電柱に上って病院の電気主任技術者の指示を受けて7日まで復旧対応に当たった。

暴風警報が解除され、末

吉さんから連絡を受けて駆け付けた電気関連事業者らが調査すると、電柱に付いている絶縁器具に塩分が付着して漏電を誘発している可能性があることが分かった。何度も清掃して耐圧検査でも問題ないと判断し、無事復旧できた。

1～7日まで計14回の停電が発生。2日は外来診療を休止するなど影響が出たが、非常用発電で乗り切ることができたという。

感謝状を受けたのは、末吉さんのほか、南西電設の親泊政夫社長と新垣淳専務、沖縄電気保安協会中部支店の謝花晃支店長、東江電気工事の東江清隆社長、大政電気計装の大城和政代表、日新電器産業の普天間直司常務。末吉さんは「計10回電柱に上った。身の危険やプレッシャーもあったが、病院の機能を維持しなければと、とにかく必死だった」と話した。